

5年ぶりに蘇る

アーユルヴェーダ

⑥

バイオリンク 辻大作社長

十年ほど前、「インドエステ」なるものが流行したことがあります。

この時、各メーカーは挙って「インドエステ」の「オイル」(胡麻油)を販売しましたが、すべて失敗しました。その理由は「インドエステ」は「オイルマッサージ」だという思い込みで取り組んだからでした。

「アーユルヴェーダ」の場合は、「胡麻油」は

ぶれがでてきたのです。未だに根強い人気がありお客様体質など、おままいなしに一齐に胡麻あぶらを塗布したのでした。副作用が起こってしまつのは、ある意味では当然のことでした。

今後、その辺のところ

化粧品の開発については、かなり進捗しており、この夏あたりには具体的なものが出てくるのではないのでしょうか。

基本的に通じる

「スキンケア」の理論

一度180度以上に過熱しなければならなかったのです。ところがそれを

るの、当然のことながら活性酸素が原因です。その「活性酸素」を除去していく化粧品、つまり「活性酸素」を「毒素」と考えた場合、あるいは皮膚や顔、太もものたるみなど、セラライトを除く去っていく狙いを持った化粧品です。

一度180度以上に過熱を見極めておかないと、失敗を繰り返すことになるでしょう。

す「補う」というものでした。そういうのではなく、まったく逆の発想による、未消化物を「排泄」させる化粧品といえます。

使ってオイルマッサージをしてしまいました。そので魅力的でもあり、エステティックサロンでは「アーユルヴェーダ化

例えば「シミ」ができ

けるかどうかは、薬事法の問題もありますので、これからの研究課題と言えますね。